

# 隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第5回

森の彫刻家 上床利秋

## 我が家の抽象彫刻

なんの予備知識や準備もないままに気に入って購入したソファは、自宅にはでかすぎました。部屋を我が物顔のように占拠したソファにどんなテーブルが似合うのか、再び家具屋さんに行って探してみてもどうにも納得できるテーブルは見つかりません。

それならば自分で作るしかないのかな？と思っていた矢先に木工職人の風間さんから電話が入りました。「大きくて分厚い楠の中古材をもらったけれど、もてあましているんだがね。……」

これはチャンスとばかりに二つ返事で加治木饅頭下げて、譲り受けてもらいに行きました。そうしてチェーンソーと鑿を使って仕上げたテーブルが写真です。



下から見上げると巨大な建造物みたい

1. 大きすぎないこと
2. 角がないこと。
3. 重たいこと
4. 定規を使わずに形を決めること
5. 安定していること

を念頭に制作してみました。

自宅の居間が既製品で囲まれていたので、手作り感満載のこのテーブルはとても愛着が湧いてきました。家具という意識よりもなんだか抽象彫刻を作っている感じがして、創作気分バリバリで楽しいものでした。はじめのうちは杉アトリエの隅っこに転がっているきれっぱしの一つを足としてテーブル板と組み合わせようとしていたのですが、どうもぐらぐらするようで、もう一つこぶをつけて安定を図りました。野暮ったいことになったかなあと思いきや、周囲の反応はカワイイでした。

イメージ通りにつくった作品を実際に使ってみると、あらためて改良すべき箇所を発見することもいい経験になりました。たまには自分でチェーンソーを使って木と格闘するのも楽しいものです。

皆さんも一つ我が家に自分で作ってみませんか？



厚み12cm 楠



使った道具

